

3 課

1月21日

十一の契約



安息日午後 1月14日

暗唱聖句

わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。(マラキ3:10、口語訳)

十分の一の^{まき}献げ物をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと／万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであろう。(マラキ3:10、新共同訳)

今週の聖句

創世記14:18～20、マラキ3:10、申命記12:5～14、レビ記27:30、列王記上17:9～16、1コリント4:1、2

今週のテーマ

創世記14章でアブラムは、ソドムから連れ去られた甥のロトとその家族、また他の人々を取り戻し、捕虜救出作戦を成功させて帰って来ました。ソドムの王は非常に感謝し、アブラムにすべての戦利品を差し出しました。すると、アブラムは、彼の申し出を断り、すべての物の十分の一をメルキゼデクに贈りました。

アブラムが十一をささげた直後、主は言われます。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう」(創15:1)。つまり、主はアブラムに「心配するな。私はあなたを守る者であり、あなたに報いる者である」と言われるのです。それからずっと後に、モーセはイスラエルがカナンに入ろうとしたとき、次のように語りました。「あなたは、毎年、畑に種を蒔いて得る収穫物の中から、必ず十分の一を取り分けねばならない。……常にあなたの神、主を畏れることを学ばねばならない」(申14:22、23)。

エレン・G・ホワイトは次のように書いています。「人々は、モーセによって十一の明確な制度が与えられる前、はるか昔にさかのぼってアダムの時代でさえ、宗教的目的のために神に贈り物を^{まき}献げることが求められていました」(『教会への証』第3巻393ページ、英文)。このことは、今日の私たちにとって何を意味するのでしょうか。

什一は単純に、私たちの収入、あるいは増加分の十分の一を神にお返しすることです。最初に、私たちは、私たちの持っているものはすべて、神のものであると理解しています。シナイ山でイスラエルに与えられた什一の制度は、什一が聖なるものであり、神のものであると指摘しています（レビ27：30、32参照）。神は、ご自分の10パーセントだけを求められます。私たちの感謝の献げ物は、什一とは別であり、什一に加えられるものです。什一は、クリスチャンの献身の最小限の証です。聖書のどこにも、神の分が十分の一以下であることを示す記述は見当たりません。

問1 創世記14：18～20とヘブライ7：1～9を読んでください。メルキゼデクに会ったアブラムは、どのような応答をしましたか。この記述は、什一が歴史上どれほど昔から行われていたことを教えていますか。

聖書の什一について最初の記述は、創世記14章で、メルキゼデクがアブラムと出会ったときの物語です。聖書の什一についての最後の記述も、同じ出会いに触れています（ヘブライ7：1～9参照）。ヘブライ人への手紙は、メルキゼデクだけでなくキリストもレビ族でないと記述していることに注目してください。什一はレビ族の特別な制度となる前にすでに存在していました。什一は、ユダヤ人の習慣だけではなく、シナイで初めてヘブライ人から始まった制度でもありません。

問2 創世記28：13、14、20～22を読んでください。神はヤコブに何を約束され、ヤコブは神に対してどのような応答をしましたか。

ヤコブが怒った兄のエサウから逃げて家を出たとき、ある夜、地上から天まで達する階段の夢を見ました。その階段を天使たちは上ったり下ったりしていました。そして、その最上段に立った神は、ヤコブと共にいて、いつの日か彼を家に連れ帰ることを約束されました。この独りの若者は、真の回心を経験し、こう言いました。「主がわたしの神となられるなら、……すべて、あなたがわたしに与えられるものの十分の一をささげます」（創28：21、22）。

安息日と同じように什一は、古代イスラエルの法制度や宗教的制度に由来するものではなかったことを理解することが重要なのはなぜですか。十字架の後に生きる私たちは、この真理から何を学ぶべきでしょうか。

問3 マラキ3:10を読んでください。この聖句から、什一をどこに携えて行くべきかについて、何を学ぶことができますか。

この聖句には、具体的な指示は書かれていませんが、神の民は、主が「倉」という言葉をどんな意味で用いられているのかを知っていたことは明らかです。神は、「わたしの家に食物があるようにせよ」との指示の中に〔その意味を〕含まれています。神の民は、神の家とは第一義的に聖所であること、すなわち、シナイ山でモーセに与えられた詳細な指示によって建てられた幕屋であることを理解していました。イスラエルが約束の地に住むようになると、その中心的な場所は、最初はシロにあり、次により恒久的にエルサレムの神殿となりました。

問4 申命記12:5~14を読んでください。これらの聖句は、神の子らが什一を預ける場所について、彼ら自身が判断できることを示していません。今日、私たちはこのことからどんな教訓を学ぶことができますか。

神の家族の一員として、私たちは什一をどうするかについて、神の御心を理解し、実践したいと思います。聖書は、神の民は、過越祭、五旬祭、除酵祭（出23:14~17）の年に三度、什一と献げ物を個人的に携えて、エルサレムを訪れ、神を賛美し礼拝することになっていたことを記しています。そして、レビ人はその什一をイスラエル中のレビ人に分配しました（代下31:11~21、ネヘ12:44~47、同13:8~14参照）。この聖書の中央の倉の原則と調和して、セブンスデー・アドベンチスト教会は、世界教会を代表する倉として、教区、教団を組織し、そこから宣教のための費用は支払われています。

教会員の利便性を考慮し、什一は地元の教会に持参され、教会員は礼拝行為の一部として什一と献金をささげます。また、オンライン献金を利用される場合もあります。その後、教会の会計係によって什一は、教区の倉に送られます。このような神によって定められた什一の管理システムによって、セブンスデー・アドベンチスト教会は、世界中に広がり、世界においてその影響力を拡大しています。

もし私たちが、アドベンチスト教会ではなく、什一を自分の判断で他の場所に送ることを決めるとしたらどうなるか想像してみてください。私たちの教会はどうなるでしょうか。このような行為は、なぜ聖書の思想とは異なる誤った考えなのでしょう。

問5 レビ記 27：30 と民数記 18：21、24 を読んでください。什一の目的として神は何を定めておられますか。

すべてのものは神のもので（詩編24：1）、神は、明らかに金銭を必要としておられません。しかし、什一は神のもので、主はその用い方を教えてください。神は、什一を福音宣教のために用いるように示されます。ですから、福音宣教者の必要は、神の什一によってまかなわれるのです。

旧約聖書の時代、聖職者の働きを担ったレビ族は、他の部族のように大きな土地を与えられませんでした。レビ人には、逃れの町を含む特定の町と、その周辺に個人の菜園を作るのに十分な土地が与えられました。彼らは他の部族の什一によって支えられ、彼ら自身もまたその収入から什一を^{もくろ}めていました。

問6 使徒言行録 20：35 を読んでください。この聖句はどんなメッセージが示され、それは什一の問題とどのような関係があるのでしょうか。

什一が大切なのは、神との信頼関係を築く助けとなるからです。収入の十分の一を取り分け、「ささげる」ことは（厳密には神のもですが）、まさに信仰の行為であり、信仰を実践することによってのみ、あなたの信仰は成長します。

例えば、黙示録13～14章（第11課参照）に描かれているように、神に忠実な者たちが、売り買いができなくなる時代が来ることを考えてみてください。神への信頼、神の摂理と力、愛への信頼を深めることは、この世のすべてが私たちに敵対しているように思えるとき、最も重要なこととなります。忠実な什一は、そのような信頼を育むのに必ず助けとなります。そのような時代が来る前に、どのような状況でも神を信頼することを学ぶことは、どれほど重要なことでしょう。

財政的に忠実であることの第二の理由は、約束された神の具体的な祝福にあずかるためです。什一の契約の一部として、神は、私たちが受け取ることができないほどの大きな祝福を与えることを約束されています。私たちは、そのあふれた分から、他者を助け、献金によって神の働きを支えることができるのです。

あなたは「受けるよりは与える方が幸いである」というすばらしい真理を実際にどのように経験したことがありますか。

什一は、時間給や給与で支払われているなら、その「収入」に基づいて計算します。また、事業主や自営業を営む場合は、その「増加分」または「利益」に基づいて計算します。多くの国では、治安、道路や橋、失業手当など、国民サービスの費用のために、政府が労働者の給与から税金を徴収しています。総収入か実質収入かという問題は、主として、什一を税金が引かれる前の収入に基づいて計算するか、引かれた後の収入に基づいて計算するかに関わっています。自営業の場合、実質的な利益を算出するために、税金が引かれる前に、事業のための経費分を合法的に控除することができます。

教会員の献金に関する調査研究は、セブンスデー・アドベンチストの多くは総収入、つまり税金が引かれる前の収入に基づいて什一をささげていることを明らかにしています。

問7 列王記上 17: 9~16 を読んでください。私たちは什一の問題について、この物語から何を学ぶことができますか。

サレプタのやもめは、神から、神の人が彼女に会いに来ると告げられました(王上17: 9)。エリヤが着くと彼女は悲惨な状況を説明しました。エリヤはまず彼女に水を飲ませてくれるように頼み、それから、次のように言いました。「恐れてはならない。帰って、あなたの言ったとおりにしなさい。だが、まずそれでわたしのために小さいパン菓子を作って、わたしに持って来なさい。その後あなたとあなたの息子の^{おもて}のために作りなさい。なぜならイスラエルの神、主はこう言われる。主が地の^{おもて}面に雨を降らせる日まで／壺の^{つぼ}粉は尽きることなく／瓶の油はなくなるならない」(同17: 13, 14)。

これは、エリヤの自己本位の要求だったのでしょうか。それとも、単に彼女の信仰を試したのでしょうか。実際にエリヤは、彼女が自らの信仰を働かせるようにゆだねたのではないのでしょうか。その答えは明らかです。

私たちは、次のように教えられています。「だれもがみな、自分自身が査定官であり、自分の心の中の目的に従って与えるようにゆだねられています」(『教会への証』第4巻469ページ、英文)。

あなたは什一をささげたことのない人に什一をささげることによる祝福をどのように説明しますか。その祝福はどのようにあなたの信仰を強めていますか。

問8 1コリント4:1、2を読んでください。神の子として、また神の祝福の管理者として、私たちはどのような人であることが求められていますか。

什一を忠実に行うとはどういう意味でしょうか。今週、私たちは什一を構成するいくつかの要素について学びました。

- 1 量——収入または増加分の十分の一、つまり10パーセント
- 2 倉に納める——福音宣教者のために支払われる場所
- 3 私たちの最初の収入である総収入を納め、神に栄光を帰す
- 4 正しい目的のために用いる——宣教の支援

教会員として最初の三つの項目を守ることは私たちの責任であり、什一の資金が正しく用いられるように管理することは倉の管理者の責任です。

また、他の献金とは異なり、什一は私たちの側に裁量は任されていません。什一も倉も共に私たちの責任の一部です。私たちがその要素を定めるのではなく、神が定められます。もし「収入」の10パーセント全部をお返ししなければ、本当の什一をささげたことにはなりません。同様に、もしその10パーセントを倉に納めなければ、本当の什一をささげたことにはなりません。

問9 マタイ25:19~21を読んでください。私たちはいつ神の資金の管理について説明を求められますか。経済的に忠実であった者にはどんな言葉が待っていますか。

「『十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい』とは、神のご命令である。それは感謝の念や物惜しみしない心に訴えられているのではない。これは単純な正直さの問題である。十分の一は神のもので、神はご自身のものを神に返すようにと命じておられるのである」(『教育』153ページ)。神のために管理することは、他に類を見ない特権であると同時に責任でもあります。神は私たちを祝福し、支えられ、十分の一のみを求められます。そして、古代イスラエルの時代にレビ族のためにされたように、什一を用いて福音宣教に携わる者を養われるのです。

什一の使われ方が気に入らないので、什一をささげないか、どこか他のところへ送ると主張する人がいます。しかし神は、「什一を倉に持って行きなさい。しかし、正しく使われていると確信できる場合に限って」とどこで言われたのでしょうか。

「もし神の民の什一のすべてが、彼らがなすべきとおりに主の倉によどみなく納められるなら、このような祝福が与えられ、その聖なる目的のための贈り物と^{きま}献げ物は10倍に増し加えられるでしょう。そうして神と人との間の通路は開かれたままになるでしょう」(『教会への証』第4巻474ページ、英文)。これは驚くべき声明です。もし私たちが忠実に什一をささげるなら、神は、私たちの献げ物を10倍にして私たちを祝福されるのです。

「マラキ3章は、神が人と結ばれた契約です。主はここに、什一とその他の献げ物をもって主に忠実に返そうとする者たちに、主の大いなる賜物を与えることによって、神のなすべき分を果たされると明記しているのです」(『レビュー・アンド・ヘラルド』1901年12月17日、英文)。

「すべての者は、私たちに語られたあらゆる要求の基礎となる神の要求を覚える必要があります。神は人に豊かにお与えになります。そして、主が人と結ばれた契約は、人の所有物の十分の一を神に返す義務があるのです。主は寛大にも、主の倉を主の管理者にお任せになりました。しかしその十分の一については、これはわたしのものであると言われています。神がその所有物を人にお与えになった分に応じて、人はそのすべての資産の十分の一を忠実に神に返す必要があります。この明確な取り決めはイエス・キリストご自身によって定められたのでした」(『教会への証』第6巻384ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ① 什一は、古代イスラエルにおいて始まった制度ではないという事実は、神の御前で私たちが負う責任の永続性を理解する上で、どのように助けとなりますか。
- ② もし人々が、什一を自分の判断で他の場所へ送ることを決めるとしたらどうなるか考えてみてください。私たちの教会はどうなるでしょうか。教会は維持できるのでしょうか。「私の什一は小さな額だから関係ない」という態度はどうでしょうか。もし、みんながそのように考えていたらどうでしょうか。クラスで、話し合ってみてください。
- ③ 什一をささげることによってあなたが学んだこと、経験したことを他の人と分かち合いましょう。什一を行うことについて、あなたは他の人に何か教えられることがあるでしょうか。

マラウイでの安息日の勝利

2006年、マラウイのある大学で、期末試験が安息日に行われることになり、アドベンチストの学生たちは窮地に立たされました。

ルーシーは悩みました。彼女や何人かのアドベンチストの学生は、国立カロンガ教員養成大学で、教師になることを目指し、奨学金をもらいながら学んでいました。財政難に陥った政府は、大学側に学生の在学日数を減らすように要請しました。その結果、期末試験の日程が安息日と重なってしまったのです。

数人のアドベンチストの学生は、学部長に試験日の再考を要求しましたが、訴えは却下されました。さらに、他の学生たちがアドベンチストの信仰を馬鹿にするようになり、状況は悪化しました。ルーシーは、仲間たちが次々と圧力に屈していく姿を見て、落胆しました。しかし、彼女を含む4人の学生たちは、揺らぎませんでした。なぜなら、彼女たちが崇めているのは、安息日の主であったからです。

4人は祈りつつ、再度、学部長室に向かいました。しかし、学部長からひどい侮辱を受けました。州の奨学金を受けていながら規則に従わないことについて、厳しく戒められ、脅しととれる言葉を投げかけられました。しかし、ルーシーたちの決意は変わりませんでした。神様が必ず助けてくださると確信していたからです。

二度目の訴えも退けられましたが、4人は祈り続け、教会の牧師にも祈ってほしいと頼みました。このリクエストは、やがてマラウイ・アドベンチスト教団の総理へ届き、総理は州当局に仲裁を申し出ました。今やマラウイ全土において、アドベンチストの多くの学生が安息日の試験問題に直面していたからです。

そんなある日のことです。突然、大学側は試験を以前の日程に戻すと発表しました。いったい何があったのでしょうか。すべての教職員と学生は、4人の忠実なアドベンチストの学生の祈りが、力強い方法で応えられたことを知りました。

「神様が介入してくださったに違いありません!」と、試験に無事合格して教師となったルーシーは告白しています。彼女は、申命記31章6節にある神様の約束に基づいて祈ることが好きです。「強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない」

今期、東中央アフリカ支部のアドベンチスト教育を支援し、安息日に試験を受ける必要のない教育機関に通う学生を支えるための第13回安息日献金にご協力いただき、ありがとうございます。(シェロン・ンドロヴ)

